

全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA) 2018 年シーズン TCS、開幕戦に向け TCS NAKAJIMA RACING への支援体制を発表

東京 | 2018 年 4 月 12 日: タタコンサルタンシーサービシズ(以下、TCS)は、4 月 21 日～22 日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で開幕する全日本スーパーフォーミュラ選手権(以下、SUPER FORMULA) 2018 年シーズンに向けて、TCS NAKAJIMA RACING への支援体制を発表しました。

TCS は、2017 年シーズンより SUPER FORMULA に参戦する NAKAJIMA RACING(有限会社中嶋企画、代表取締役社長:中嶋 悟)をタイトルスポンサーとして、また、TCS がグローバルで培ってきた知見と技術力を生かし、テクノロジーパートナーとして IT の側面で技術的なサポートを提供しています。

車体のカラーリングが一新

2018 年シーズンはマシンのカラーリングがリニューアルされます。全 11 チームがエントリーする SUPER FORMULA において、ライバルチーム勢の車両から異彩を放つ、ブルー、ホワイトを基調としたデザインを踏襲しつつ、ブルーのレイアウトがより強調され、TCS のロゴが鮮明に映えるデザインとなりました。



SUPER FORMULA 2018 年シーズンを戦う TCS NAKAJIMA RACING の SF14

新ドライバーが加入

今シーズンは中嶋大祐選手に代わり、昨シーズン、DOCOMO TEAM DANDELION RACING から SUPER FORMULA に参戦した伊沢拓也選手(#65)が TCS NAKAJIMA RACING に加入しました。伊沢選手は 2018 年シーズンへの抱負について次のように述べています。

「今季の目標は、まず 1 勝を挙げる事。メンバーの力を結集すれば十分に勝てるポテンシャルがあるチームだと感じています。コミュニケーションをしっかりと取り合い、さまざまなアイデアを試しながら、勝つことだけを考えてレースに臨みます」

TCS は表彰台を目指し果敢にレースに挑む伊沢選手を応援します。



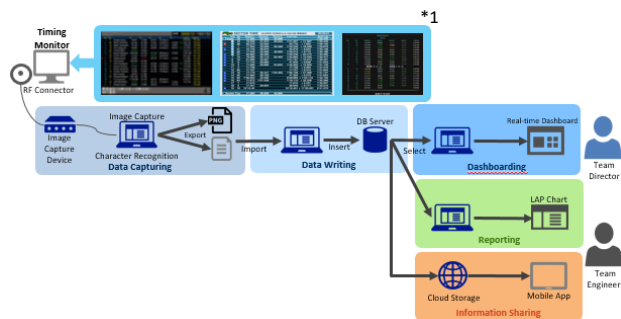
2018 年シーズン、チームドライバーとして TCS NAKAJIMA RACING に加入する伊沢拓也選手(#65)

テクノロジーパートナーとしての TCS の取り組み

現在、SUPER FORMULA にエントリーするレーシングチームに対しサーキットで提供されるタイミングデータ(サーキットを周回する車両の最高速やラップタイム)は、直近の周回情報のみで、これまで、刻々と更新されるタイミングデータの記録はチームスタッフによる手作業で行われていました。また、サーキットごとに提供されるデータ表示形式*1も異なることから、データ収集と解析の効率化が求められていました。

そこで、TCS は、これらの課題を踏まえ、周回タイムやサーキットの天候、ピット作業中の給油量のデータ収集を自動化するとともに、これらのデータを一元的に管理、表示できるダッシュボードを開発し、ユーザーエクスペリエンス(UX)の改善、向上を目指しています。

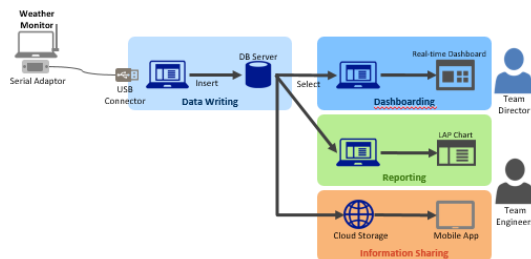
テスト走行から予選、決勝レースにかけて随時生成されるサーキット環境や車両から得られたデータを収集、解析し、チームドライバーへフィードバックすることでパフォーマンスの向上を図ることに加え、チーム全体で共有することにより、次戦以降のレース戦略策定にも寄与すべく、研究と実証を継続していきます。



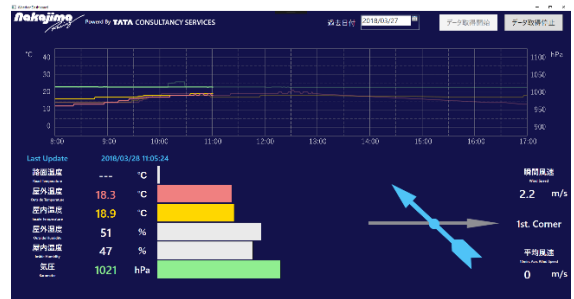
タイミングモニタ・ダッシュボードの構築概念図



タイミングモニタ・ダッシュボードのインターフェース



サーキット環境(気象)データ抽出の構築概念図



サーキット環境(気象)ダッシュボードのインターフェース

研修生の参加

2017年シーズンに引き続き、日本タタ・コンサルタンシー・サービス(日本 TCS)より2名の社員が TCS NAKAJIMA RACING にピットクルーとしてシーズン全戦を通じて参加し、ハンズオンでマシンやレースに関する理解を深めることで、テクノロジーサポートの向上を目指していきます。



日本 TCS から TCS NAKAJIMA RACING のピットクルーとして参加する研修生

西本 聖(エンタープライズアプリケーションサービス本部: 写真左)、森田 歩(デジタルテクノロジーサービス本部: 写真右)

SUPER FORMULA 2018 年シーズン開催スケジュール:

Round	公式予選	決勝レース	サーキット
第 1 戦	4/21(土)	4/22(日)	鈴鹿サーキット(三重県)
第 2 戦	5/12(土)	5/13(日)	オートポリス(大分県)
第 3 戦	5/26(土)	5/27(日)	スポーツランド SUGO(宮城県)
第 4 戦	7/7(土)	7/8(日)	富士スピードウェイ(静岡県)
第 5 戦	8/18(土)	8/19(日)	ツインリンクもてぎ(栃木県)
第 6 戦	9/8(土)	9/9(日)	岡山国際サーキット(岡山県)
第 7 戦	10/27(土)	10/28(日)	鈴鹿サーキット(三重県)

以上

全日本スーパーフォーミュラ選手権(SUPER FORMULA)について

SUPER FORMULA は、1 シーズン(年間)全 7 戦を通じて行われ、11 チーム、国内外の 19 名のドライバーが国内 5 つのサーキットを転戦してチャンピオンシップを争う、アジアで唯一の国際格式フォーミュラ選手権シリーズです。SUPER FORMULA にエントリーする車両はレースに特化した競技専用で、シャシーは全チーム共通でイタリア・Dallara(ダラーラ)社製「SF14」を使用する規定になっています。シャシーに搭載するエンジンは 2 リッター直列 4 気筒・直噴ターボエンジンで、各チームは HONDA(本田技研工業)製「HR-417E」または TOYOTA(トヨタ自動車)製「RI4A」のいずれかを選択します。軽快かつ俊敏な走行性能を備えたマシンは、参戦するドライバーから「コーナリング速度は F1 以上」と言われています。SUPER FORMULA の特徴的なルールには、決勝レースで 5 回だけ使用が許可される「オーバーテイクシステム」があり、ドライバーがステアリングの「オーバーテイクボタン」を押すと、燃料流量の上限が 20 秒間だけ拡大し、エンジン出力が増強されることで、前走するライバル車に追い抜き(オーバーテイク)をかけるチャンスが生み出されます。レースにおける重要な戦略的要素であるとともに、ファンにとって見どころのひとつになっています。

SUPER FORMULA の詳細については、<https://superformula.net> をご覧ください。

NAKAJIMA RACING について

NAKAJIMA RACING は、日本人初の F1 フルタイムドライバー中嶋 悟氏が 1991 年に F1 ドライバーを引退後、国内外の若手ドライバーの育成を目指して設立し、1992 年より自らが総監督を務めるプロフェッショナル・モーターレーシングチームです。NAKAJIMA RACING はレースでの勝利のみに目的を置くのではなく、より多くのファンや自動車業界の関係者から、内容が充実したイベントとして評価されることを重視しています。また、技術的な進化にとどまらず、自動車の社会性も考慮し、モータースポーツの振興に貢献することを目指しています。NAKAJIMA RACING の詳細については www.nakajimaraicing.co.jp をご覧ください。

タタコンサルタンシーサービシズ(TCS)について

タタコンサルタンシーサービシズは、半世紀にわたり革新的かつ業界最高水準の IT サービス、コンサルティング、およびビジネスソリューションを世界中の大手企業に向けて提供し、その変革への道のりを支援しています。TCS はコンサルティングを基盤とし、コグニティブ技術を活用した BPS、エンジニアリング・サービスやソリューションを総合的に展開しています。これらを卓越したソフトウェア開発の基準として認識されている、TCS 独自のアジャイル・デリバリー・モデルを通じ、地理的制約にとらわれることなく提供しています。

TCS は世界最大規模の多国籍複合企業体であるタタグループに属し、最高水準のトレーニングを受けた 390,000 人を超える人材を擁し、世界 46 カ国で事業を展開しています。2017 年 3 月 31 日を末日とする会計年度の売上高は 176 億米ドルに達し、インドナショナル証券取引所とボンベイ証券取引所にも上場しています。また、気候変動に対する積極的な取り組みや表彰を受けた地域活動を世界中で展開しており、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスや MSCI グローバル・サステナビリティ・インデックス、FTS4E グッド・エマージング・インデックスをはじめ、主要なサステナビリティ指数の構成銘柄に名を連ねています。

TCS の詳細については、www.tcs.com をご覧ください。